

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403558		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイいわき内郷グループホーム(さくら通り)		
所在地	福島県いわき市内郷御厩町3-34		
自己評価作成日	平成30年 1月 8日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年 3月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者様々のニーズの把握に努め、個別ケアを提供し穏やかに安心して生活して頂けるように努めている。 ②毎月、イベントを実施し活動的な生活を支援している。(個別支援) ③避難訓練の定期的実施による入居者様の安全の確保、職員の研修参加による知識や意識のスキルアップの向上促進に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議に利用者の家族全員に参加を呼びかけたり、事業所行事開催時にアンケート調査を実施して、多くの意見や要望を聞き、改善等を図りながら、サービスの向上に努めている。 2. 年間研修計画があり、各委員会の職員が講師となって、毎月定期的に研修を実施して、職員の資質の向上を図っている。また、法人も介護福祉士等の資格取得のための研修会を開催する等の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1F・2F事務所に掲示し、朝礼時唱和している。	地域密着型サービスの意義を反映した事業所独自の理念を事業所内に掲示している。毎日朝礼時に唱和をして理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア受け入れ交流されたり、地域のイベントに参加されています。	自治会に加入し、清掃活動や盆踊りに参加したり、近くのスーパーに買い物に出かけたり、散歩等での挨拶を交わしながら交流に努めている。また、絵手紙教室等でのボランティアを受け入れ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩の際等、地域の方とコミュニケーションを図り接点を持つことにより理解して頂こうと努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ご家族、包括職員、医療関係者へ報告し、意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催し、事業所から利用者状況や活動内容を報告し、意見をもらうようにしているが、町内会役員や民生委員等、地域住民の代表者の参加がない。また、事業所の課題や評価結果、災害時の連携体制のあり方等が話し合われていない。	町内会役員や民生委員、ボランティアの代表等、地域住民の代表者の参加を呼びかけて欲しい。また、事業所の課題や評価結果、災害時の連携体制のあり方等についても話し合ってもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況を伝え、保険制度・運営・サービスについて窓口や電話で相談している。	市の担当者とは、事業所の運営状況や介護保険制度、人材不足等について、直接窓口に出向いたり、電話で報告や相談をしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通し、職員にアンケートを行い研修・会議を持ち拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束11項目について内部研修し、身体拘束をしないケアを実践している。また、身体拘束ゼロ委員会が職員に対して自己チェック表を活用しながら、拘束がないかどうかを確認している。なお、日中玄関の施錠は行っていないが、中仕切ドアはオートロックされ、玄関先に自由に出ることができない。	中仕切ドアのオートロック対応は、施錠せずに利用者が安全に過ごせる方法はないか、全職員で話し合いを行い、改善に向けて取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる行為等、会議・研修などで職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを見て学んでもらい必要時に活用できるようにした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時など説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を聞いたり行事の際にアンケートを実施し次回に反映できるよう努力している。	日常の会話や面会・電話連絡等の機会を利用して、利用者や家族の意見・要望を聞いている。また、運営推進会議に多くの家族が参加し、意見や要望が出されており、職員の顔写真の掲示や利用状況報告のあり方等について意見があり、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談、職員会議などで意見や提案を聞き、反映できるよう努力している。	管理者は、職員会議や申し送り等、日頃の関わりの中で意見や要望を聞き、運営に反映させている。また、個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談をし意見や提案を聞き可能な限り努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、情報交換や法人内のGHの交流でサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から聞き取りを基にニーズの把握をし、職員間で情報の共有をし、本人の不安や要望に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、職員間でカンファレンスを実施しながら信頼関係が築けるようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先すべき支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食事作り、洗濯畳み等を一緒に行い、本人の得意なことは教わりながら、出来ないことは支援しながら関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切に、連絡を取り合い共に支えていく関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、友人が訪問しやすい開放的な環境作りをしている。又、イベント等に参加して頂き一緒に過ごす機会を作っている。	家族の協力を得ながら、外泊やドライブ、外食等馴染みの場所への外出支援を行っている。また、芋煮会等の行事を通して、家族等との交流の機会を設け、疎遠にならないよう努めている。家族や知人が訪れた時は、時間を気にせず居室でゆっくり過ごしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格を理解し、心地良く過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との継続した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から本人の意向を汲み取り、カンファレンスで検討している。	日常会話や表情、行動を見ながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な利用者には、表情や仕草等から思いを汲み取ったり、以前の生活歴や家族の協力も得ながら、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査で伺った際に、本人や家族、担当CMから話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気付きや働きかけに対する反応を記録やカンファレンス等で情報共有、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、主治医の指示、日々の記録や気付き、意見を反映し介護計画書を作成している。	日々のケアの状況や主治医の意見、利用者・家族の思いや意向を聞きながら、アセスメントやモニタリングを行い、当初は1カ月、その後支援状況を見ながら、3カ月から1年の介護計画を作成している。また、利用者の身体状態に変化が生じた時は、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実施や気付きを記入し、朝夕の申し送り時に情報の共有を図り、見直しの活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じた対応をし、枠にはまらない柔軟な姿勢で本人や家族の要望に答えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事にも参加させて頂いている。又、地域のボランティアも来所されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き主治医を決めている。 主治医に相談、確認しながら支援している。	利用者や家族の希望する医療機関の受診支援を行っている。利用者の殆どが協力医療機関を選び、訪問診療を受診している。かかりつけ医への通院は家族対応を基本としているが、利用者の症状等により事業所が同行支援し適切な医療が受けられるよう支援している。24時間オンコール体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に情報・気付き・不安な事を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師と密に連携をとり情報交換や状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取りについて説明し医療機関と連携を図り家族・本人の意向を確認しながら取り組んでいる。	契約時に、事業所の「重度化した場合の対応に係る指針」により説明し同意を得ている。また、協力医療機関が、本人、家族の医療に関する意見・意向を確認し書面で事業所と情報を共有しており、終末期の対応について、状態変化の都度関係者が話し合い方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・緊急時対応マニュアルで実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。 非常食や水の確保をしている。	火災を想定した防災訓練を年2回実施し、1回は消防署の立ち会いを得た訓練を実施している。地域の協力や消防団等の協力体制は構築されていない。また、地震や風水災害等を想定した訓練が実施されておらず、非常時災害に備えた備蓄品も準備されていない。	火災だけでなく、地震や風水害等の災害を想定(昼・夜間・季節含む)した訓練を数多く実施し、全職員が利用者を避難誘導できる実体験を積んで欲しい。また、非常時用備蓄品の準備や地域住民の協力が得られるよう取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ対応を心がけている。	プライバシー保護マニュアルが作成されており、研修や会議で利用者の人格や誇りを損ねない言葉かけや対応を周知徹底し支援している。重要書類等は事務室で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い・希望を話せる雰囲気を作り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々本位の支援を心がけ、希望に添うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう言葉かけ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	役割分担で作業を一緒に行なってもらい、会話をしながら楽しく食事をしてもらっている。	食材・献立は契約業者に委託している。メニューは季節に応じた「お楽しみメニュー」や月2回パン食が選べるよう配慮されている。食材の下ごしらえや、テーブル拭き、茶碗拭き等を手伝い、会話をしながら楽しい食事となるよう支援している。職員の食事は休憩時間を利用している。	職員の休憩時間の確保や食材費の自己負担等により、利用者の食事支援のみを行っているが、地域密着型共同生活介護事業所の特性を踏まえて、利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを検討して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を観察し記録に残している。状態に応じて言葉かけ・介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態・能力に応じて促し、介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンに合わせ、言葉かけや誘導をしている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握するよう努め、仕草や動作、行動等から声かけ誘導を行い、できる限りトイレで自立排泄ができるよう取り組んでいる。声かけ、誘導に際しては自尊心やプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品の提供やおやつ時に寒天ゼリーなどを取り入れている。又、軽体操実施やお腹のマッサージ等を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望に沿い、毎月変わり風呂(果物や花)で季節を感じてもらい楽しく入浴してもらっている。	利用者の希望に配慮した入浴ができるよう支援している。入浴剤や菖蒲湯、リンゴ湯、さくらの花びらを浮かべ、入浴を楽しんで頂くよう取り組んでいる。入浴を好まない方には、時間や対応職員を替え気分転換を図りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、安心して休めるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法について理解し、状態変化時や薬の変更時は職員の申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや趣味の時間を設け楽しく過ごして頂けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、毎月の行事等で外出をしている。	近隣の住宅地や公園、川辺の散歩に出かけたり、買い物、名所地へ出かけられるよう支援している。また、家族との外泊や法要に出席し、通院の際に外食をするなど外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を家族と話し合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り、イベント時の写真を掲示している。 明るさ、音楽等も工夫している。	共用空間にはボランティアの方から学んだ絵手紙や行事写真、貼り絵等を飾り、生活感や季節感が感じられるよう配慮している。また、温度・湿度管理を行い居心地よく過ごせるようにしている。清掃は利用者と職員が一緒に行い清潔感を保つよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いスペースにソファを置き寛げる空間作りや廊下にベンチを置き、落ち着いた談話できる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人・家族と相談しながら居室の配置をし、椅子やタンス等の馴染みの物を持ち込み居心地良い空間となるよう配慮している。	入居時、利用者と家族の意向を反映した居室のレイアウトとしている。居室にはテレビや、整理タンス、椅子、手鏡等を持参し、家族写真や傘寿祝い品を飾り、その人らしい居室となっている。また、居室に畳やコタツ、テレビを持ち込み、在宅時の生活に配慮された自分らしく居心地よく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を活かし、自分で飲みたい時にお茶が飲めるようセットしてあり、トイレ・自室がわかるよう工夫をし、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。		